資料２

県立あすなろの郷あり方ワーキングチームの実施状況について

設置日	平成２７年３月１３日
構成員	障害福祉課担当２，社会福祉事業団担当２ 民間事業所施設長４（白山成年館，しろがね苑等） 育成会役員３　　（あすなろの郷育成会，土浦市育成会等）
開催状況	平成２７年３月から平成２８年１月まで計５回開催
主な活動	①現状認識の共有 ・施設や入所者の状況を視察 ・あすなろの郷の特徴・特色の把握 ②データの整理（アンケート調査の実施） ・県内４１施設へ重度や高齢化の状態，入所待機者や職員数の状況を調査 ・各都道府県立施設へも同様の調査を実施 ③論点の洗い出し（あり方の方向性を整理）
あり方の方向性	**〇重度・高齢・医療の３つの特徴を踏まえつつ，経営の重点化・効率化を図る。** ・民間施設との役割分担とともに，介護施設とのマッチングや建て替えによる経営の重点化・効率化を検討していく。 ・ただし，重点化・効率化を進めていくにあたっては，利用者の混乱を招かないよう慎重に対応していく必要がある。 **〇民間施設や地域との関係強化を図る。** ・県内の入所待機者の状況を踏まえ，民間施設や市町村等と連携した入所調整を検討していく。 ・ＡＢＡ研修や指導者派遣などを通して，あすなろの郷と民間施設の職員間の交流促進，県全体の支援困難者への対応強化を図っていく。 ・地域の育成会とともに地域療育等支援事業を行うなど，在宅相談を含めた社会貢献の取組を強化していく。 **〇人材確保・育成等のさらなる強化を図る。** ・非正規職員の正職員登用制度や職員研修の充実，専門的職員の処遇改善を進めていく。

県立あすなろの郷あり方ワーキングチームの実施結果について

【第１回会議】（平成 27 年 3 月 26 日開催）
・重い方を見ていただければ県立施設として存続する意味もある。
・不採算事業こそ県立施設の必要な機能。
・民間で果たせない役割を果たしてもらいたい。
　など「県立あすなろの郷の役割」についての話題が多い　→第２回重点議論

【第２回会議】（平成 27 年 5 月 26 日開催）
育成会関係者が参加。「県立あすなろの郷の役割」について重点議論。
・あすなろを終の住処として考えている。環境が変わることは本人のために心配。
・強度行動障害者等民間で引き受けられない方々への対応を。最後のよりどころ。
・医療的に民間で見切れない方もあすなろの役割。
・民間と県立はお互いリンクしあい，利用者が選択できることが大切。
・職員研修，専門的職員の厚遇など人材面での取り組みも必要。
・あすなろの現場の声も聴きたい。そのうえで，あすなろの強み・売りを広げる考え方も必要。→第３回重点議論

【第３回会議】（平成 27 年 7 月 29 日開催）
あすなろの郷の現場の若手による発表。
・最近の入所者の多くは，他害行為等により他の施設を断わられた方。
・ＡＢＡ（応用行動分析）研修では，民間施設からの参加者受入や訪問研修も実施。
・重い方が多いので現在の処遇（職員体制）を維持しての受入（民間移譲）は無理。
・スリム化を図るには重度及び高齢化の方に特化するのがよい。終の住処の検討も。
・重い方からの依頼が多いことから短期入所は絶対に必要。
・非正規職員の中でも熱心な方を正社員にするシステム構築を。

【障害者支援施設の調査】（平成 27 年 8 月）
　茨城県内及び各都道府県立の，主たる利用者を知的障害者とする障害者支援施設（入所施設）に利用者の重度や高齢化の状態，入所待機者や職員数を把握するためのアンケート調査を実施した。

〇県内施設アンケート結果（調査対象 45 施設のうち 41 施設から回答（91%））
　あすなろを除く県内施設の計とあすなろとの比較を行った。※（ ）は各現員比

①入所定員及び現員
　県内施設計：定員 1,992 名，現員 1,959 名。あすなろ：定員 462 名，現員 448 名
②重度の状況
　重度重複障害者数においては，県内施設計 132 名(6.7%)，あすなろ 96 名(21.4%)，障害者支援区分６の方の人数，県内施設計 727 名（37.1%），あすなろ 302 名（67.4%），療育手帳Ⓐ最重度の方の人数，県内施設計 794 名（40.5%），あすなろ 346 名（77.2%）となっており，割合比較ではそれぞれ 2 倍程度の差があった。
③高齢化の状況
　50 代以上の方では，県内施設計 723 名（36.9%），あすなろ 228 名（50.9%）となっている。
④入所待機者（重複登録あり）
　県内施設計 643 名（32.8%），あすなろ 119 名（26.6%）とともに入所待機者は多い。

あすなろの郷は他の県内施設に比べて，重度・高齢化の方が多く入所している一方，入所現員がほぼ定員に達し入所待機者も多く，茨城県全体的に入所受入の余裕があまりない。

〇県立施設アンケート結果（43 都道府県回答，県立施設は 22 都府県で計 48 施設あり。）

都府県内の入所定員総数が 200 名以上の 11 都府県（宮城県，山形県，福島県，茨城県，埼玉県，東京都，神奈川県，新潟県，山梨県，岐阜県，大阪府）で比較を行った。

①入所定員（施設規模）

療育手帳人口に対する入所定員の割合を見ると，東京都，埼玉県など都市部で比率が低く，地方では比率が高くなる傾向がみられる。茨城県の比率は 2.3%であり，福島県，岐阜県と同程度であるが，宮城県や新潟県で 1.4%など地方でも比率の低い県もある。

②重度の状況

平均障害支援区分おいて，茨城県は 5.6 と埼玉県の 5.7 に次ぎ，神奈川県 5.5・岐阜県 5.5 と同程度であり，11 都府県では一番重いグループに位置する。

③高齢化の状況

50 代以上の方の割合では，茨城県は 51％と半数を超えているものの，東京都 73%，福島県 63%，山形県・大阪府 60％とより高齢化が進んでいる都府県がある。

④入所待機者

入所現員に対する割合では，人口の多い東京都は 66％と埼玉県は 59％と高いが，茨城県は神奈川県と同じ 27％と３番目であり，比較的入所待機者は多いと言える。

⑤職員数

直接処遇職員の入所現員に対する割合では，茨城県は 58%である。大阪府 109％，神奈川県 106％と入所現員を超えている府県のある中では，茨城県は比較的低い方である。

⑥県立施設としての役割

神奈川県が強度行動障害者に対する民間施設職員への研修や地元大学との協働プロジェクトなど「民間施設を交えた研究・研修」を積極的に展開している。

県立施設を抱える都府県の中でも，茨城県立施設のあすなろの郷は重度の方が多く入所しており，入所待機者も比較的多く需要も高い。また，直接処遇職員の割合も比較的低い。あすなろの郷は，全国的にも重度に特化した県立施設である。

【第４回会議】（平成 27 年 10 月 29 日開催）

障害者支援施設調査結果の報告及びあり方の方向性（案）の提示。

・3 つの方向性案には賛同する。「社会貢献活動」（公益事業）の特徴も入るといい。
・民間施設も区分 5 以下や 50 代以上などと特化しているところもあるので，スリム化は簡単にはいかないかもしれない。
・スリム化について，入所者，現在安定しているのに不用意に動かすのは混乱を招く。
・調査結果を見ると，あすなろの郷は全国的にも健闘していると言える。そんな中で，スリム化を図る必要はあるのか。むしろ定員を増やすべきではないか。
・非正規職員を正職員に登用するなど，人材の確保育成に努めてほしい。
・介護が必要な障害者は，介護保険に取り込まれるのではないか。寮単位で介護に移行するなども考えられる。
・知的障害者と認知症は別。知的障害者が介護施設で孤立している例も聞いている。
・あすなろの郷に特養施設ができると安心する。
・県内の入所待機者を詳しく調査をし，民間への振り分けなども実施してみてはどうか。
・県内の育成会に ABA 研修などを浸透させてほしい。障害児を抱える親が困った時に相談できる窓口になってほしい。

【第５回会議】（平成 28 年 1 月 22 日開催）

あり方の方向性（案）について議論。

・スリム化は単に入所者を減らすのではなく，適正規模は何かと考えることが大切。

・相当重い人でないと介護保険の認定がされない。

・精神薬を服薬していたため特養に断れたことがある。知的障害者を特養に入れるとかわいそう。高齢者専用のグループホームでの対応が現実的。

・「スリム化」という言葉は独り歩きする。但し書きを書いてくれたことは理解できるが，「混乱を招かないよう」とあるがどの程度のことを「混乱」というのか不安を感じる。表現をかえてほしい。

「スリム化」では職員リストラだと認識してしまう。受け取り方によっては，意味合いが変わってくる言葉なので変えた方がよい。

・あすなろの売りは医療とともに，高齢や重度など寮ごとに特徴をもっている。こういった本来の機能に必要な人のみ入所してもらうことが大切。

・気を付けることは施設内ですべてを完結させようと思わないこと。社会的資源とどうリンクしていくか。

・入所している方に動いてもらうことは難しいが，重度・高齢・医療と３つの柱が見えてきたので，入口の段階で必要な人のみ入所してもらうことが大切では。

・入所登録は市町村が行っており，登録前に施設が関われる仕組みが必要だと感じている。市町村担当者への施設の状況などの情報提供が必要である。

・ハードには現場の意見を盛り込むこと。支援の強化にもなる。

・あり方の方向性については，①「スリム化」の表現，②入所調整のところに市町村や相談事業所が関わることがわかるようにする，を見直していくことで了承願いたい。

県立あすなろの郷あり方の方向性

〇重度・高齢・医療の３つの特徴を踏まえつつ，経営の重点化・効率化を図る。

・民間施設との役割分担とともに，介護施設とのマッチングや建て替えによる経営の重点化・効率化を検討していく。

・ただし，重点化・効率化を進めていくにあたっては，利用者の混乱を招かないよう慎重に対応していく必要がある。

（参考データ）
・平成 26 年度（末）時点
・原則障害者支援施設内の数値
・「県内施設計」H27.8 調査による
（あすなろの郷は含まない）
・（　）は各現員比

（参考データ）

あすなろの郷の施設概要	定員（人）	現員（人）
障害者支援施設	462	448
医療型障害児入所・療養介護	40	40

重度の状況（人）	重度重複障害者数	障害程度区分６	（平均）	療育手帳Ⓐ(最重度)
あすなろの郷	96（21.4%）	302(67.4%)	5.6	346(77.2%)
県内施設計	132（　6.7%)	727(37.1%)	5.0	794(40.5%)

高齢の状況（人）	50 歳以上	うち 60 歳以上
あすなろの郷	228(50.9%)	106(23.6%)
県内施設計	723(36.9%)	384(19.6%)

医療の状況（件）	あすなろの郷病院外来
	23,444
常勤医師２名（神経内科・小児科）	

〇民間施設や地域との関係強化を図る。

・県内の入所待機者の状況を踏まえ，民間施設や市町村等と連携した入所調整を検討していく。

・ＡＢＡ研修や指導者派遣などを通して，あすなろの郷と民間施設の職員間の交流促進，県全体の支援困難者への対応強化を図っていく。

・地域の育成会とともに地域療育等支援事業を行うなど，在宅相談を含めた社会貢献の取組を強化していく。

（参考データ）

入所待機者（人）	計	男性	女性
	119	76	43

早期希望	順番が来たら	将来的に
37	57	9

※H25.10 入所待機者の希望状況調査より

ＡＢＡ研修	開催数（回）	民間施設受講(延人数)	民間施設受講(実人数)
	14	226	43

地域療育等支援事業（件）	家庭訪問等	外来指導等	電話相談	施設支援	講師派遣	計
	1,029	1,367	312	455	131	3,294

〇人材確保・育成等のさらなる強化を図る。

・非正規職員の正職員登用制度や職員研修の充実，専門的職員の処遇改善を進めていく。

（参考データ）

直接処遇職員(人)	職員数	正職員	非正規職員	正職員比率
あすなろの郷	261(58.3%)	155(34.6%)	106(23.7%)	0.59
県内施設計	1,165(59.5%)	863(44.1%)	312(15.9%)	0.74